

まえがき

みなさんは自分の実践を丁寧に語りながら振り返る機会がありますか。また、他の人の実践をじっくりと聴いて、共に学ぶ機会がありますか。

これまで日本語教育分野でおこなわれてきた教師研修は、講師を中心とした講演会や参加型のワークショップが中心で、学ぶ内容が予め決まっていたり、単発的な研修が多く見られます。一方、本書で取り上げるラウンドテーブル型教師研修は自分たちの実践を出発点として仲間とともに丁寧に振り返り、それを継続的に行い、コミュニティもつくっていくことを目指しているため、これまでにない「新しい教師研修スタイル」と言えます。筆者らは、当該研修を2008年から東京と北京で数回実施し、2015年から「学びを培う教師コミュニティ研究会」(<https://manabireflection.com/>)を立ちあげて、毎年、中国(上海)、ベトナム、国内(東京、兵庫、長崎など)で活動を展開してまいりました。

日本語教師を取り巻く教育現場も学習者も、そして教師自身も多様です。このような中で日本語教師は様々なことに配慮しながら1つの方法やこれまでの教え方などにとらわれることなく、日々の授業などと向き合い、しなやかに対応することが求められています。そして、日々泥臭く奮闘する日本語教師自身の中には、経験から得た知識や実践から感じとった感覚が育っていると思われれます。このような力の元となっていることや自身の経験を当該研修で言葉に紡いだり、紐解いたり、仲間と探求し合うことには、果たしてどのような意味があるのでしょうか。

本書では、「実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修」によって、どのようなことが可能になるのかについて提案したいと考えています。これまで本研修に参加したことがない方に本研修のイメージを持っていただくだけでなく、すでに本研修に参加してくださった方にも研修で体験したことは何だったのかなどについて考えられる機会にできれば幸いです。本研修で目指しているのは、具体的には以下のとおりです。

- (1) 実践を協働で丁寧語り、聴くことによって実践から省察する力を培っていくこと。
- (2) 参加した教師たちが互いに互いの学びを支え合うことによってできる人間関係を育むこと。
- (3) 国内の様々なコミュニティ（大学・送り出し機関・日本語学校・EPAによる看護師など・年少者・NPO・ボランティア・ビジネスなど）や海外の日本語教育コミュニティとつながっていくこと。

本研修の参加者からは、次のような声がありました。「このような機会がこれまでなかった。ここでは形にできないことを形にしている」、「さまざまな経験や価値観を感じ、熱気に満ちていた」、「毎年参加させてもらっていますが、いつも違う感動があります」、「報告者の話を聴いて、改めて自分の場合はどうするか考えた」、「実践を聴いて自分もまた頑張ろうという気持ちになった」、「学校教育以外に企業の方の話も聴くことができ、立場の異なる方々ともつながりがあることを実感した」、「参加者が互いに尊重できる会だった」、「国内外の違いはあるが、同じ教師として共通する点が多いことに気づいた」、「語り手の話を聴いて、自分の実践と照らし合わせ、考えるところがあつたなと思った」

本書では、当該研修の考え方を支える理論を紹介したうえで、これまで行ってきた本研修の具体的な実践例を書きました。本書を通して読者のみなさまの実践からの学びを下から支え、多くの日本語教育関係者を励まし、拠り所となれば幸いです。それでは、「新しい教師研修」の世界を見ていきましょう。

目 次

| | |
|--|----------|
| まえがき | 3 |
| 第1章 実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修とは | 9 |
| 1-1 省察とは | 10 |
| 1-2 実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修のはじまり | 12 |
| 1-3 ラウンドテーブルとは | 13 |
| 1-4 日本語教育向けに考案した 「実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修」..... | 14 |
| 1-5 なぜ、ラウンドテーブル型日本語教師研修は日本語教師に 必要か..... | 16 |
| 1-6 実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修が 目指していること | 17 |
| 1-7 大人の学びに寄り添う： じっくり、ゆっくり、たっぷり語れる環境づくり | 20 |
| 1-8 ラウンドテーブル型教師研修の特色 | 22 |
| 1-9 なぜ実践コミュニティが求められるのか | 23 |
| 注 | 25 |

【 理 論 編 】

| | |
|--|-----------|
| 第2章 実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修を 支える3つの考え方 —省察的実践、成人学習論、実践コミュニティ— | 27 |
| 2-1 省察的実践 | 28 |

| | | |
|-------|---|----|
| 2-1-1 | 日本語教師教育における省察的实践..... | 30 |
| 2-1-2 | ラウンドテーブルに生かされているショーンの考え方..... | 33 |
| 2-2 | 成人学習論..... | 36 |
| 2-2-1 | 大人とは..... | 36 |
| 2-2-2 | なぜ、日本語教育に成人学習論が必要か..... | 37 |
| 2-2-3 | 成人学習論の土台となる考え方..... | 38 |
| 2-2-4 | 批判的ふり返し..... | 44 |
| 2-2-5 | ラウンドテーブルに生かされているメジローの考え方： 3種のふり返し..... | 45 |
| 2-2-6 | 意識変容の学習プロセス..... | 47 |
| 2-2-7 | 成人学習における実践コミュニティと組織学習..... | 54 |
| 2-3 | 実践コミュニティ..... | 54 |
| 注 | | 56 |

【 実 践 編 】

| | | |
|------------|--|-----------|
| 第3章 | 実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修の 全体像..... | 57 |
| 3-1 | 日本語教育における ラウンドテーブル型日本語教師研修の必要性..... | 58 |
| 3-2 | ラウンドテーブル型日本語教師研修の構成..... | 60 |
| 3-3 | ラウンドテーブル型日本語教師研修のメンバー..... | 60 |
| 3-4 | ラウンドテーブル型日本語教師研修の実際..... | 61 |
| 3-5 | ラウンドテーブル型日本語教師研修の話題提供の準備..... | 62 |
| 3-6 | ラウンドテーブル型日本語教師研修の進め方..... | 63 |
| 3-7 | ラウンドテーブル型日本語教師研修の例..... | 66 |
| 3-7-1 | 国内で開催されたラウンドテーブル型 日本語教師研修の例..... | 66 |

| | | |
|------------|---|-----------|
| 3-7-2 | 中国で行われたラウンドテーブル型 日本語教師研修の例 | 70 |
| 3-7-3 | ベトナムで行われたラウンドテーブル型 日本語教師研修の例 | 73 |
| 3-8 | 中国とベトナムの現状とラウンドテーブル型日本語教師研修が 必要とされた背景 | 76 |
| 3-8-1 | 中国の場合 | 77 |
| 3-8-2 | ベトナムの場合 | 79 |
| 3-9 | 語り手と聴き手のふり返り | 81 |
| 注 | | 87 |
| | | |
| 第4章 | 実践を省察するラウンドテーブル型日本語教師研修後の 運営者によるふり返りの会 | 89 |
| 4-1 | ラウンドテーブル型日本語教師研修後の運営者による ふり返りの会 | 90 |
| 4-2 | ふり返りの会におけるファシリテーターの声 | 91 |
| 4-3 | ファシリテーターの役割と力量形成 | 96 |
| | | |
| 第5章 | これまで行った実践を省察するラウンドテーブル型 日本語教師研修の紹介 | 99 |
| 5-1 | 国内開催 | 100 |
| 5-2 | 海外開催 | 102 |
| 5-2-1 | 中国・北京ラウンドテーブル型日本語教師研修 | 103 |
| 5-2-2 | 中国・上海ラウンドテーブル型日本語教師研修 | 104 |
| 5-2-3 | ベトナム・ハノイラウンドテーブル型日本語教師研修 | 106 |
| 注 | | 109 |

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 第6章 越境学習としての実践を省察するラウンドテーブル型 | |
| 日本語教師研修—コミュニティを横断して学ぶ— | 111 |
| 6-1 新たな現象 | 112 |
| 6-2 越境学習とは | 116 |
| 6-3 越境による学びの事例紹介 | 119 |
| 6-4 国境を越えて学び合うことの意味や可能性 | 122 |
| 6-5 学び合うコミュニティ同士のつながり | 123 |
| 注 | 124 |
| あとがき | 125 |
| 参考文献 | 127 |
| 索引 | 135 |